

第 2 回 CPD WG 委員会議事録

日時：10月30日（火） 10:00～12:25

場所：日本工学会事務所

出席者（順不同、敬称略）：

主査 大輪武司（芝浦工業大学 理事）
委員 片桐雅明（株式会社日建設計シビル 地盤調査設計部門 技術長）
木村軍司（首都大学東京 名誉教授、電気分野）
永田一良（日立製作所研究開発本部 技術主管、日本技術士会）
中村暢文（東京農工大学大学院・共生科学技術研究院 准教授、化学部門）
山本 誠（東京理科大学工学部機械工学科 教授、機械分野）
事務局 柳川隆之

配布資料：

- CPD07-2-1 第 1 回 CPD WG 会合議事録案
- CPD07-2-2 CPD 活性化への考察（桑原協議会長）
- CPD07-2-3 CPD ポイントの決定方法（8 学協会）（木村委員）
- CPD07-2-4 委員名簿 0710 改訂版
- CPD07-2-5 CPD協議会での標準化ガイドライン項目について（大輪主査）
- CPD07-2-6 日本技術士会 CPD の形態と時間重み係数(CPDWF)及び CPD 時間の関係
（永田委員）
- CPD07-2-7 真に役立つ CPD とは？（永田委員）

議 事（発言者の敬称略）：

議事に先立ち、大輪主査から、この WG は昨年 の 3 つの専門委員会を引き継ぐものであり、そこでの検討結果を実現することを目指しており、委員の協力の下にこれを進めてゆきたい、との挨拶が行われた。

1. 前回議事録確認

大輪主査から、9月26日に開催された第1回WG会合の議事録案が説明され、今後の進め方を含めて、これを確認した。

2. 事務研における桑原協議会長の講演

事務局から、10月10日の事務研で行われた桑原協議会長の「CPD 活用活性化への考察」の講演の要点が説明された。

3. 標準化すべき事項に関する討議

1) CPD ポイントの標準化

木村委員から、地盤工学会、計測自動制御学会、電気学会、電子情報通信学会、土木学会および化学工学会の CPD ポイントの決め方について調査した結果が報告された。先行する地盤工学会および土木学会の方式が基本になっていることが認められる。

また、永田委員から、日本技術士会における CPD ポイントの定め方が紹介された。

「同会の場合には、APEC の申請・更新も同様のシステムで運用されており、これらの意見も反映している。基本的な形態や重み係数には変更を加えずに、あいまいな点を無くし、外部の評価にも耐えるものにするため改定を計画しており、来年初めに関係学協会にも案を提示して意見をもらい、4月から運用する予定にしている。」とのことである。

続いて、片桐委員から、建設系 CPD 協議会における CPD ポイント登録の状況の説明が行われた。問題となっている点は、CPD ポイントを受け取る側のデータの扱いに対するスタンスの違い（例えば、エビデンスの必要性など）があることであり、最低限の条件に合わせているとのことである。また、CPD ポイントを登録する人が多くないとのことであった。

意見交換では次のような意見が出た。

*時間の記録は分単位は必要なく、時間単位でよい。(片桐)

*電気電子・情報系 CPD 協議会では、建設系の CPD 運用システムを導入して、電気学会と電子情報通信学会が、現在試行している。(木村)

2) CPD 協議会での標準化ガイドライン項目について

大輪主査から、対象とすべき技術者、CPD ポイントの扱い、質の保証および情報提供システムなどについて、日本工学会 CPD 協議会として取り上げるべき事項の案が提示された。これに対して次のような意見交換が行われた。

*ポータルサイトは有効だと思うが、この協議会で取り上げるか？(永田) ⇒考え方が出ていないが、これまでの成果は使う。例えば、認定に必要なデータ仕様はできている。(大輪)

*ポータルサイトは受けたいプログラムを見つけることができるのがよい。キャリアパスの証明や自分の能力開発の管理に使えるとよい。昨年までの成果は生きているのか？(永田) ⇒プログラムのコード付けなどを検討し使えるようになっている。(大輪)

*システムのあり方としては、工学会で受講履歴などすべてのデータが集められているとよい。IC カードが使えるれば簡単に他学会に提供できる。(木村) ⇒現在の考え方はホーム学協会に蓄積するというもので、IC カードで履歴を持ち歩くことにはなっていない。(大輪)

*IC カードは安くなってくるので、工学会で IC カードの標準化をすれば、採用するところが出てくる。ただ、先行学協会があれば、工学会の考え方が受け入れられるとは限らない。

*機械系で建設系の成果は使えるか？(永田) ⇒CPD ポイントを貯めることが何のためになるかという点で明解な答えが出ていないのが問題である。(山本) ⇒企業が CPD の考え方を採用し活用する方向に持っていくことが望ましい。(永田)

3) 真に役立つ CPD とは

永田委員から、高い志を持った技術者の能力開発のための CPD のあり方と CPD プログラムの構想についての考察結果が提示された。「こういうコースがあるから受講してください」というアプローチではだめで、真に役立つ能力開発について大きなビジョンを打ち出すことが大切である、という結論である。

これに対して次のような意見交換が行われた。

*企業が使ってくれるかどうかが発展の鍵である。(大輪)

*建設系では CPD 実績が入札条件になっているが、そうした場合には企業が受講を奨励しているのか？(木村) ⇒その通り。(片桐)

*そういう場合の実績証明は第三者機関が行う必要がある。(大輪) ⇒地方の工業団体が行うことが多い。(片桐)

*競争入札制度になると会社の技術レベルを客観的に証明する必要がある。(大輪) ⇒公共工事を中心に品確法がきっかけになっている。エレベータや原子力の事故がきっかけになって、経産省でもそういう動きが期待される。また、情報処理の資格も公の資格になりつつあり、企業の中でも人事考課に反映させつつある。(永田)

*CPD 協議会の対象技術者を学会員に限るという点だが、電気分野では登録していれば学協会会員かどうかにかかわっていない。(木村) ⇒学協会あるいは分野ごとの協議会に任せておけばいい。工学会は全体的な調整を行い、各分野ではそれぞれの協議会がしっかり実施してゆくというのが基本的な考え方である。(片桐)

*分野ごとにばらばらになると問題ではないか。(木村) ⇒「xxx 会のものを標準とする。」という程度のゆるい方向付けをし、がちがちな基準を作ることは不可能である。(大輪)

*プログラムのコードなどこれまでいろいろ検討されているので、この実現を考えて

いってはどうか。(木村) ⇒分野ごとの協議会が活動している中で、工学会が何をやるかを明確にすべきである。ポータルサイトでは、分野横断検索をできるようにしようとしたが、そういう機能が果たしてどれくらい使われるかという意見が出て、進んでいない。(大輪)

- * 工学会は調整役に回るのでなく、何が必要か大きなビジョンを上流で議論して、それをどう実現するかを検討するべきである。(山本)
- * 日本技術士会における CPD ポイントの内容を見てみると、技術士会や学協会主催の講習会はわずかで、大部分は企業の中で行ったものや特許・執筆・指導といったものとか自己学習などが多く見受けられる。(永田)
- * こういう点を議論して、工学会は何を中心に考え、何を各分野の協議会に任せるかはっきりさせたい。(大輪)
- * 協議会のある分野は、建築系、機械系、電気情報系、化学系があるが、あとは材料、生物、原子力が必要ではないか。(大輪、永田)
- * 化学系では、大企業は CPD は要らないとっており、CPD は何のために行うかのニーズが分からないということで足踏みしている。化学では専門のところには入り込まず、ベーシックな部分しか CPD の対象にならないという特別な事情がある。ここの教育は大学でできる。しかし、化学は安全面などで影響があるので、協議会の活動に協力すべきとの認識はある。バイオは小さなベンチャーが多く、統一は取りにくい。技術の進歩が早い分野ではベーシックな部分しか CPD の対象にならない。化学でも、化学工学では CPD が進んでいる。(中村)

以上の議論の結果、今後は工学会と分野ごとの協議会のそれぞれで行うべきことを議論してゆくこととした。また、片桐委員から IC カードによる受講履歴管理の将来像を紹介してもらうことにした。

次回を次のように開催することにした。

11月29日(木) 10時~12時 於. 日本工学会会議室

以上